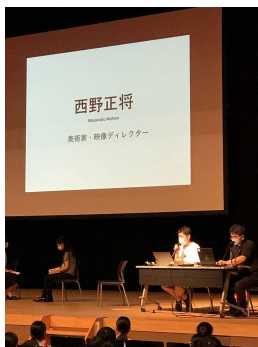


「ようこそ先輩」ホルトホールで 西野氏を迎えて講演会を行いました!

9月11日(金)に、卒業生である西野正将氏を迎えて、講演会「ようこそ先輩 ～先輩と創る未来へのヒント～」を行いました。西野氏は、本校を2000年に卒業後、大分県立芸術文化短期大学を卒業後、崇城大学に編入。その後、東京藝術大学大学院の先端芸術を修了した卒業生です。現在は、美術科・映像ディレクターとして、活躍をされています。



講演会は、西野氏より自身の作品についてのプレゼンから始まりました。最初期の作品から、最近の映像作品まで、解説を交えながらの内容でした。その後ステージ上で、4名の生徒の疑問・質問に西野氏が答えるという形で、会が進んでいきました。



「誰に対して作品をつくるべきか。」「アイデアはどこから湧いてくるのか。」「影響を受けた作家は誰か。」「芸術を学んで、為になった事は？」など、さまざまな生徒の質問に、真摯に答えて戴きました。

その中でも、まず印象に残ったのは、「責任がとれる作品創り」です。「何となく面白そうだから」と制作した作品は相手に失礼であるという事を、経験を交えて話しをしていただきました。きちんと説明ができる「責任をもった作品創り」の大切さについてのアドバイスでした。また、美術をやっていると、「それ程美術は万能ではないって事がわかった。しかし、人の意識や見方を変えたりすることはできる。」といった話から、作品制作の量についてや、映像作品のやりがいなどについて、そして作家として生活をする事についても、わかりやすく講話戴きました。



作家として活動続ける先輩を間近にして、話をする事で、生徒自身、どう美術と向き合っていくか、深く考えることができた2時間でした。